



社 長

この度、平成27年7月1日付けで社長を交代いたしました。先代の平川謙二社長は代表取締役会長に就任し、引き続き代表権を持ちながら、新社長の平川隼大取締役社長に引き継ぎを実施していく。

この度、取締役社長に就任させていただきました、平川隼大(とび)です。私の社長就任にあたっての想いはただ一つ『株式会社大安に携わる人々、全てを幸せにすること』です。携わる人々とは、社員やその家族、お客様や仕入先の人々のことです。全てを幸せに、という事は、誰かが我慢したり、こちらが幸せになることによって、相手が不幸せにならないようにするという事です。



交 代

会長からは、様々なことを教わってきました。特に力強く言われていることは、『心磨きをして人間性を高めなさい』ということ。私自身、まだまだ未熟なところが多々あることは自覚しているのですが、本を読んだり、先輩社長の話を聴いたり、セミナーに参加したり、社員の皆とコミュニケーションをとるなどして心磨きをしていきたいと考えています。

今期で48期目になる会社をこれからも繁栄させ続けて、皆さんを幸せにさせ続けられる会社創りを、これから全身全霊をかけて進めてまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

会長の心根

7月1日をもって社長を交代した。昭和51年12月に29歳で大安の社長に就任して依頼、満38年と半年での交代である。ここ数年は実務の方は完全に任せたいので交代したからと言って変化は無いが、社内では息子に社長を譲ると数年前に話をしていたので、今回けじめをつけるために内外に挨拶状を送付してお知らせした次第。

今回の事、一部の人は「まだ早いのでは？」と言われる方もいたが、まだ私が元気なうちにとの想いと、もう一社の平川商会の経営に力を傾注したいとの考えから今回の交代につながった次第。実際に通販物流の方も着実に数値も上がってきており、私の出番が無くなってきたのも事実、これからは若い人の力で大安を引っ張ってほしい。新社長はまだまだ若い、これから先、幾多の困難が待ち受けている事と思う。『泰然自若』で、ドンと構えて自分の信じる道を歩んでほしい。

代表取締役会長 平川謙二
感謝

新社内体制の紹介

代表取締役 会長 平川謙二

会長に退き社長業を少しずつ移管していくとともに社長としての心構え等を指導教育していく。



取締役社長 平川隼大

社長業を少しずつ引き継いでいくとともに心磨きをして社長として相応しい人間となる。



顧問 橋本康房

業務内容を完全に引き継ぎ、非常勤顧問として若手のフォローをしていく。



運送事業部 本部長 立花 剛

小倉営業所所長を兼務し、運送事業部全体を統括管理していく。



本社営業所 所長 伊藤誠浩

本社営業所を統括管理していくとともに、ダンプとトレーラーの配車を担当していく。



営業課長 佐々木 桂一郎

社内全体の営業活動を担い、新規案件の創出をメインに活動していく。



総務経理 主任 光永 加奈枝

社内全体の総務経理を担当し、営業や配車や乗務員を陰から支えていく。



物流事業部 営業主任 有延義之

倉庫の現場責任者を兼務し、物流事業部の新規案件創出や現場構築を担当していく。



配車係 田中陽一

大型乗務員から配置転換、本社(営)で伊藤所長の配車を引き継いで業務に精励していく。



配車係 Oさん

某運送会社から縁あって、大安に入社予定。佐々木課長の配車を引き継ぐ。



7月から社内体制が変わり新たな役割で稼働を開始しました。今後、少しずつ業務の移管を実施していきます。業務内容の引継ぎには、万全の体制を整えておりますが、何ぶん不慣れなこと

も多々あるかと推測されますので、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

歴史と人物に学ぶ

NSP経営躍進塾資料より

「会社再建王 坪内壽夫翁」

著・野見山 登

来島船渠の再建

(後の来島ドック)に至る経緯

坪内翁と出合いを賜った翌年

(1991年/平成3年)住友系の来島船渠の再建に至る経緯を坪内翁に直接詳細にお話を伺ったことがある。

1996年集英社発行/著者半村良先生『億単位の男』に詳細に書かれているが、ある時、坪内翁から電話を頂き『東京の集英社が来てワシのことを本に書きたいと言ってきたのじゃが、同意してくれんかの』との連絡。

二つ返事で了承し、ホテル奥道後の離れ「坪中川邸」で、はじめて作家半村良先生と出合いを賜った。

当時、半村先生は、軽い脳梗塞を患っておられ、片手が不自由なため対談しながら器用にフープロ打ちをされていた。この日を境に3回、坪内翁と半村先生は対談内容をメモしながらテープレコーダーに収録させて頂いた。以下、対談内容とテープに録音した一部を紹介いたします。



昭和初期、愛媛県新居浜で別子銅山を経営していた住友財閥は、煙突から出る亜硫酸力又による今で言う公害問題が起き賠償問題に発展した。この為、国は住友家に対し煙害の賠償責任と改善対策を求めた。昭和14年に至ってようやく亜硫酸ガスの中和工場ができて煙害は終わったが、それまでのいきさつから賠償金を支払い続けなければならず、住友家は学者を動員し煙害が無くなったことを証明し、賠償金の支払いを拒否しようとした。毎年その賠償金の査定をしている愛媛県側は、住民感情を考慮して、賠償金の支払いをやめるかわりに住友家に造船所を経営するよう要請した。その条件を呑んだ住友がつくったのが、波止浜造船所である。その波止浜造船所が、戦後財閥の解体で来島船渠株式会社にかわったのだ。

設立は昭和24年5月、資材もなく受注もなく、労働組合の攻勢は激しく、こうした企業はつきつぎに倒産した時期で、来島船渠株式会社も半年後の11月に閉鎖休業に追い込まれてしまった。その間税金の支払いなどで設備も機械も売り食い状態、造船所は廃墟となっていた。

昭和27年、不況にあえぐ造船界とは逆に映画館経営で前例のない2本立て3本立て興行で日銭の流れ込む坪内に、この来島船渠の再建者として狙いをつけられた。坪内は、弓削商船学校を出て一等航海士と船長の資格を持っている。だから満州江を上り下りしていたのだ。当然海運業には関心はつよかった。映画で儲けて資金も充分だった。ところが愛媛の財界はまだ38歳の坪内に対して反感を持っていました。『映画館の小僧に何ができるか』と言った者が少なくなかったのだ。昭和24年

昭和52年頃、坪内翁の経営する映画館は、年間3億円位儲けていたので、最初の企業再建の話が舞い込んできたのだ。昭和26年の県知事選挙で当選した久松定武氏が、労働問題で倒産寸前に陥って

いた住友系の来島船渠の再建を公約にあげ当選を果たした。久松知事は公約を果たすために、38歳で映画館経営に成功していた坪内に再建を依頼されました。昭和27年11月坪内のもとへ、久松知事の使者が現れた。人の妬みを買って金を儲けていたのに、坪内は借家住まいだった。坪内はいくら金をかせいで、その金を住居に費やすようなことは生涯なかった。金儲けができる世間が騒ぐほどの豪邸などに住むような趣味は持ち合わせなかった。『私、今井鶴女の夫です』坪内は、今井鶴女という名前を知らなかった。『高浜虚子の姪にあたります』と助役がそばで説明をした。

『知事になられた久松さんが選挙のとき当選したら来島船渠を再建すると約束してくれましたから、波止浜町の票を全部久松さんに入れさせたのです。久松さんは当選したのですが、来島船渠の再建はいまもってできておりません。町はさびれ放題で、困っております。知事さんの公約が果たせないと、町長も私も公約違反になります。それでは正岡子規の名譽を汚すことにもなります。どうか再建をして下さい』2人は同時に頭を深々と下げ『お願いします』と、坪内はその2人に好感を持ったが、勿論はじめて聞く話に即答することはなかった。

『住友がよせんものを、わしにやれと言われても。造船は素人じゃし。』2人は『造船は素人でも、あなたに船乗りじゃったではありませんか』それをききかけに、坪内と今井町長の間で話が弾み、坪内は自分より正岡子規の姪だと言う奥さんのほうが、偉いと思いついて、その後、坪内と今井町長との対談が友好的だったと言う部分だけが一人歩きしました。

『鋼船を格安で建造し、月賦販売をした』です！お楽しみに！

そうなったとたん坪内の所へ、来島船渠に愛着を持ち続ける技術者たちも訪れるようになった。彼らはかつての職場を復活させたい一念でやってくるのだ。そこにはなんの利害もなく、技術者魂と海の男の情熱が入り混じった熱気が、坪内に伝わった。勿論、銀行家も政治家も財界人も来る。しかし、坪内の心をとらえたのは、そういう利害抜きで男たちの情熱であった。後に久松知事より直接来島船渠の再建を頼まれた坪内は、東宝の社長小林一三氏に相談をした。小林一三氏は『天下の住友を助けてやれば、住友に貸をつくることになる』と強く勧められ、はじめて造船界に進出する決断をした。当時の日本銀行松山支店長の浜口喜太郎氏は、再建を引き受けた坪内に『乞食になるかも知れんぞ』とも言われた。『わしはまだ38歳じゃ、丸裸になるかも知れんぞ』坪内は家に戻ってキミ卫夫人にそう宣言した。夫人はすぐ『おやりなさい』と笑みを浮かべて答えたと言う。『銀行は口では庶民の金を預かる社会的責任があると言いつつ、その実貧乏人が大嫌いなものじゃ』坪内はシベリアから復員して5年で銀行のやり方を見抜いていた。『儲けとけば寄って来るが、金が無くなれば寄り付きません。芸者と同じじゃ』と、そして、自分は銀行が嫌う貧乏人相手の商売をするのだと言っていた。

坪内は来島船渠再建に賭けた。赤字まみれの会社に億単位の個人資産を投入した。だが、瀕死の来島船渠は、資金を投入するだけで再建できる状態ではなかった。造船所でありながら、船を発注する客がなかった。『鋼船を格安で建造し、月賦販売をした』

『鋼船を格安で建造し、月賦販売をした』です！お楽しみに！

『鋼船を格安で建造し、月賦販売をした』です！お楽しみに！



47平ボディ車
乗務員募集中!

未経験者大歓迎!

大型トラックへの
ステップアップできます!

是非ご紹介下さい!

森信三先生のことば

「夫婦の愛情」

真の夫婦というものは、お互いに相手の不完全なこと、否、欠点さえもよく知り合っているながら、しかもそれを包み隠そうとしない処に、相互の信頼が成り立つと言ってよいでしょう。否、そればかりか、互いの不完全なことをいたわり合って渡っていくところに、この現実界における真の夫婦の相(すがた)があるといつてよいでしょう。

結局のところ愛するとは、(一)相手を人間として愛することであり、いま一つは、(二)相手のために自己を捧げるという処がなくてはならぬと、思うのです。

(「幻の講話」)

7月20日現在

¥93.0 (税別)

前月仕入単価 ¥93.4-
過去最安値 ¥65-
過去最高値 ¥144.0-

軽油仕入
単価

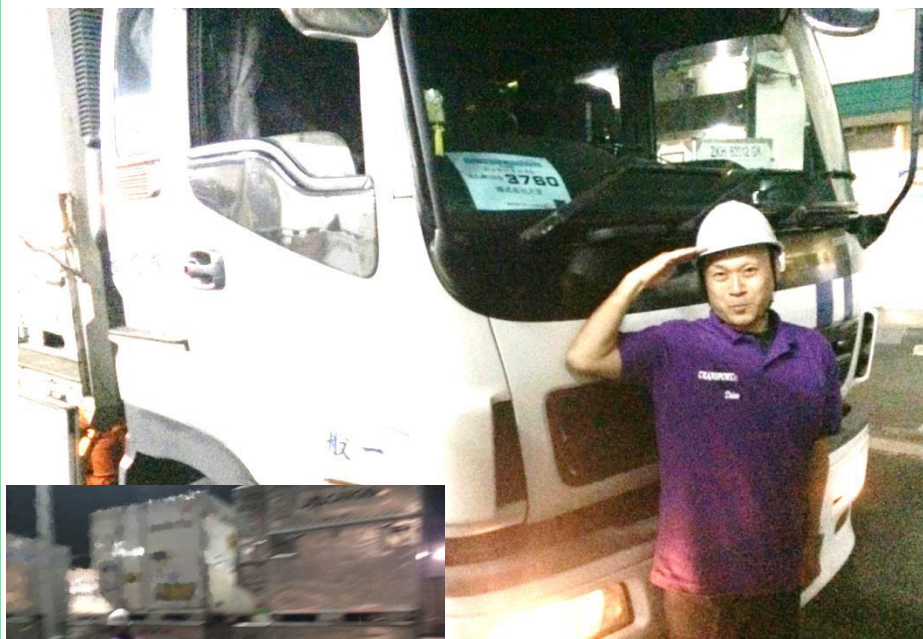
深夜定期便絶賛運行中です!

我社のエースドライバー野田さんが深夜定期便を運行しています。

野田さんは、営業が獲得して来た新規定期案件を数件、立ち上げから安定稼働までさせています。

この、新規案件を初期段階から安定稼働まで、乗務員が自ら現場で信頼関係を構築しながら安定稼働化させることができるというのは、とても高いコミュニケーション能力と現場スキルが必要です。

今後は、今の定期案件を別の乗務員に引継ぎ、次の新たな任務(新規案件)に就くことを期待しています!



↑カメラを向けると気さくに敬礼

←動きが早くてシャッタースピードが追い付きません!



発行：株式会社 大 安

住所：北九州市八幡西区池田3-6-24

TEL：093-618-5010 FAX：093-618-5021

ホームページ 運送：dai-an-truck.com 倉庫：logi-helper.com



毎月20日 発行